

## 一 般 講 演

### 1. 肺癌における unilateral hypoperfusion lung について

山岸 嘉彦	隈崎 達夫	椎葉 忍
本多 一義	佐藤 雅史	西川 博
疋田 史典	奥山 厚	細井 盛一
青海川秀敏	三谷原重雄	菅原 謙三
有賀 長規	大矢 徹	斎藤 了一
田島 広之		(日本医大・放)
山手 昇	松島 申治	若林 武雄
		(同・胸部外科)

MAA による肺血流シンチグラムで、1側肺全体のビマン性の activity 低下または欠如を、unilateral hypoperfusion lung と呼び、その臨床的意義について報告を重ねて来たが、今回は肺癌につき本病態を呈するものを集め検討した。

対象は昭和48年1月から、昭和56年5月までに施行された MAA 肺血流シンチグラフィー 705 例中、肺癌で unilateral hypoperfusion lung を呈した 18 例である。うち全く activity のなかったものは 8 例であった。一部症例については、 $^{133}\text{Xe}$  ガスによる換気シンチグラフィーを行った。また肺動脈撮影、気管支撮影を併用したものもあった。

単純 X 線写真上 opaque なものは 18 例中 13 例、lucent なもの 3 例、hyperlucent なもの 2 例であった。MAA シンチグラムは、肺動脈撮影像によく一致し、Xe シンチグラフィーによる換気イメージを加えることにより、病態が明らかとなり、換気が血流に優先するという従来からの説をうらづける興味ある 3 例にも遭遇した。X 線上 lucent, hyperlucent の場合特に意義があると思われた。

興味ある症例を供覧した。

### 2. 最近経験した肺血栓症

—CT との対比も含めて—

菊池 陽一	和田 光功	黄田 保光
大島 統男	秋貞 雅祥	(筑波大・放)

最近われわれは先天性家族性 Antithrombin III 欠損症に起因した肺血栓症を経験したので報告した。患者は 46

歳の男子で、数年前からときどき胸痛、頻呼吸などがあったが、55年12月24日夜間激しい胸痛が起ったので翌日当院へ入院した。入院時身体所見で右胸部痛、左胸部背面の血管性雑音また心第2音の亢進、分裂が認められた。動脈血分析で Hypoxia, Respiratory alkalosis を呈し ECG で V<sub>1</sub> に肺性 p 波がみられた。肺血栓が疑われ  $^{99\text{m}}\text{Tc}$  MAA による肺血流スキャンを施行したところ、右肺は S<sub>3</sub> に血流がみられるのみで、左肺にも血流のムラがみられた。 $^{133}\text{Xe}$ ,  $^{81\text{m}}\text{Kr}$  による換気スキャンでは異常なく、Ventilation-Perfusion Mismatch の所見を呈し、強く肺血栓症が疑われ CT スキャンを行ったところ、右肺動脈内に造影剤 Enhance されない部分があり肺動脈血栓症と診断できた。RI venography ( $^{99\text{m}}\text{Tc}$  MAA) では下肢の深部静脈内には血栓を示す所見は得られなかった。内科的治療開始後、肺動脈造影も施行したが、所見は肺血流スキャンを裏付けるものであった。一方家族調査を含む血液学的検索で、先天性家族性 Antithrombin III 欠損症と診断された。以上より、肺動脈起始部の大きな血栓の場合、肺換気・血流スキャンと CT スキャンによって確定診断まで到達することができる場合があることがわかった。またこのような慢性的血栓症では、肺血流スキャンと、CT スキャンが、経過観察上も有用であると思われた。

### 3. 心筋 8 分割局所血流指数 (CMBF) について

疋田 史典	山岸 嘉彦	隈崎 達夫
椎葉 忍	本多 一義	西川 博
奥山 厚	細井 盛一	青海川秀敏
三谷原重雄	菅原 謙三	有賀 長規
大矢 徹	斎藤 了一	田島 広之
		(日医大・放)
高野 照夫	宗像 一雄	瀬戸 廣
		(同・1内)

$^{201}\text{Tl}$  Cl による心筋イメージの評価について、シンチバック 1200 を用い、正常 10 例、心筋梗塞 30 例 50 回につき、心筋 8 分割局所血流指数 (CMBF) を施行した。オリジナルのプログラムに、area のカウント数を area で割ったものと、total のカウント数を total の area で